

慶應義塾のこの1年

塾員の皆さまにもお届けしている「社中特別号」にあたり、この1年間にあった義塾の主なニュースをまとめてみました。各ニュースの詳細や、その他の最新ニュースは、義塾Webサイトで確認できますのでご参照ください。 <http://www.keio.ac.jp/>

理工学部創立75年記念式典挙行

理工学部は、2014年に創立75年を迎えました。理工学部は、藤原銀次郎が私財を投じて、1939年に日吉の地に藤原工業大学を開校したのが発祥です。開校から5年後に慶應義塾に寄贈されて工学部を開設、現在の理工学部に至っています。創立75年を記念し、2014年6月14日に、晴天の日吉キャンパスにおいて記念式典が挙行されました。協生館の藤原洋記念ホールでの式典では、海外からの来賓

の祝辞や留学生からの抱負の言葉などもあり、現在の理工学部・理工学研究科の雰囲気物語るように国際色豊かに行われました。

理工学部のある矢上キャンパスでは、慶應義塾創立150年記念事業の一環として、2012年末より新築工事が進められていた理工学部教育研究棟(34棟)(写真右)が2014年1月に竣工。柱を極力省いた実験実習空間や将来の変更に柔軟に対応できる自由

度の高い施設の教育研究棟はトップクラスのものづくり教育環境を実現し、理工学部の研究・教育を飛躍的に活性化させると期待されます。



南三陸町の慶應義塾の森で山小屋お披露目会を開催

慶應義塾が宮城県南三陸町志津川に所有している学校林(慶應義塾の森)に、このたび山小屋が建てられました。2014年6月15日、そのお披露目会および竣工披露式が開催され、清家塾長をはじめ関係者が多数出席しました。

慶應義塾は現在全国に約160ヘクタールの山林を学校林として所有しており、植林や育林などの活動を行い、教育・研究に活用し

ています。50年前に最初の学校林となった南三陸町志津川の慶應義塾の森でも、教職員と塾生が植林や遊歩道の整備などに取り組んできました。これらの諸活動に際し、着替えや休憩、悪天候時の一時避難ができる拠点となるような施設が以前より求められており、慶應義塾の森での活動の支援にあっている林業三田会と福澤育林友の会の協力により、

山小屋の建設が実現しました。この山小屋を拠点として、慶應義塾の森で行われる教育・研究活動やボランティアなどの諸活動がますます活発化していくことが期待されています。



記念植樹を行う清家塾長

大学病院新病院棟(1号館) 地鎮祭举行

2014年5月12日、慶應義塾大学病院新病院棟(1号館)新築工事の地鎮祭が信濃町キャンパスの6号棟跡地にて執り行われました。この1号館は、地下2階、地上11階となる予定(写真右が完成予想図)で、2020年春の全工事完了を目指していますが、一部は2015年から開業します。2017年に創立100年を迎える医学部にとって、未来への礎となることが期待されています。



湘南藤沢キャンパス(SFC)の 新しい設備

SFCでは、2014年5月に「Fabspace(ファブスペース)」(写真)をメディアセンター(図書館)に開設しました。従来の3Dプリンタに加え、より高精細な出力が可能な新型の3Dプリンタやカッティングマシン、3Dスキャナ、デジタル刺しゅうマシンが設置され、学生が自由に利用可能です。またSFCでは6月に、クリーンで高効率な業務用・産業用燃料電池発電システムを企業と共同で導入して電力需要の一部を賄う取り組みを開始、さらに8月には政策・メディア研究科の池田靖史教授が中心となって、環境負荷低減に貢献する住宅技術の開発を目指す実験的なモデルハウスを設置するなど、先進的な取り組みが行われています。



武藤嘉紀君(経済学部4年)、 サッカー日本代表に選出

「塾」前号のPortraitのコーナーでも紹介した、現在経済学部4年在学中のJリーガー武藤嘉紀君が、2014年8月にサッカー日本代表に選出され、9月9日のベネズエラ戦では初得点をあげるなど、活躍しています。2015年1月に行われるアジアカップでの活躍も期待されています。



東京六大学春季リーグ優勝/ パレード実施

体育会野球部は、2014年6月1日、東京六大学野球2014春季リーグ戦早慶戦で早稲田大学を破り、6季ぶり34回目の優勝を決めました。

閉会式終了後、明治神宮外苑・絵画館前から三田キャンパスまでのパレードと三田山上での優勝祝賀会が行われ、パレードには3000人、優勝祝賀会には2000人を超える塾生、塾員などが参加し歓喜に酔いしれました。



アインシュタイン博士の直筆草稿・書簡類が慶應義塾に寄贈される

ノーベル賞受賞者、アルベルト・アインシュタイン博士直筆の草稿や書簡等が、医師で九州帝国大学教授であった三宅速^{はやし}氏の孫の比企^{ひき}寿美子^{すみこ}氏より慶應義塾に寄贈されました。その多くが未公開資料で、新たにアインシ



来日した印象・雑感を記録した草稿。初めの4枚は日光金谷ホテルの用箋に書かれている



比企寿美子・能樹夫妻による清家塾長、田村俊作図書館長への資料の説明

ユタインを知る貴重な資料となります。寄贈された資料は、博士の来日の船旅に偶然乗り合わせ、以降長く交誼を結んだ三宅氏が受け取り保管していたもので、日本到着後、講演のため国内をめぐった博士がその雑感を記した「日本における私の印象」の草稿や書簡など、およそ20点です。2014年1月8日に、比企氏のご厚意により義塾へ寄贈され、慶應義塾図書館に収められました。

博士の来日初講演が行われたのは、1922年11月19日、慶應義塾大学三田キャンパス大講堂でした。直前の11月10日、船旅の途中でノーベル物理学賞受賞の知らせを受けての来日となり、日本は熱狂的に迎えました。講演当日は、学生、市民、慶應義塾の関係者など、2000人を超える聴衆が会場を埋め尽くし、休憩を挟みながら約5時間に及ぶ講演に熱心に聞き入ったといわれています。それからほぼ1世紀を経た昨年、慶應義塾が資料の寄贈を受けたことになります。

大学院経営管理研究科が新プログラム「Executive MBA」の2015年4月開設を発表

経営管理研究科は、日本で初めてとなるエクゼクティブに特化した学位プログラム「Executive MBA」を2015年4月に開設します。このプログラムは、在籍先の企業・団体等における職務に精通した方々を対象としており、職責を全うしながら2年間でMBAを取得し、プロフェッショナルとして在籍先でステップアップしていける人材の育成を目指しています。在籍先の職責を全うしながら、十分な予習・グループならびにクラスディスカッションが必須なケース授業での学びを深めるために、土曜日を中心とする開講としていることが大きな特徴です。詳細は、以下のWebサイトをご参照ください。

KBS Executive MBA

[URL http://www.kbs.keio.ac.jp/emba/](http://www.kbs.keio.ac.jp/emba/)

『福翁自伝』英訳版 刊行

絶版となっていた福澤諭吉著『福翁自伝』の英訳版、『The Autobiography of Fukuzawa Yukichi』（清岡暎一訳）の新装版が、2014年10月に刊行されました。慶應義塾大学社会・地域連携室（三田キャンパス北館2階／日吉キャンパス協生館2階コミュニケーション・プラザ）や慶應義塾公式グッズWebサイト（[URL http://keiogoods.jp/](http://keiogoods.jp/)）にて頒布されています（税込4500円）。

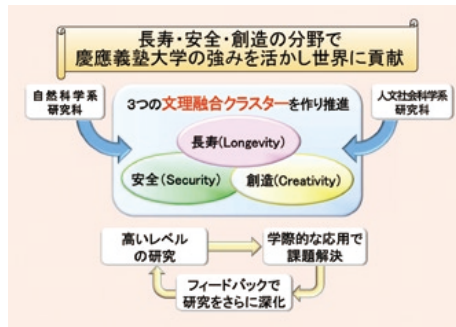


文部科学省「スーパーグローバル大学創成支援」事業に トップ型(タイプA) 13大学のうちの1校として採択される

慶應義塾大学は、文部科学省の平成26年度「スーパーグローバル大学創成支援」事業に、世界レベルの教育研究を行うトップ大学(タイプA)として採択されました。この事業は、徹底した国際化と大学改革を断行する大学を重点支援することにより、我が国の高等教育の国際競争力を強化することを目的として今年度から新たに実施されたもので、世界レベルの教育研究を行うトップ大学(タイプA)と、先導的試行に挑戦し我が国の社会のグローバル化を牽引する大学(タイプB)が公募されました。

採択された構想は、『『実学(サイエンス)』によって地球社会の持続可能性を高める』。義塾の建学精神に則り、実学によって地球社会の持続可能性を高めるための文理融合研究を進め、国際的な学術コミュニティや産業界との連携を強化しつつ、慶應義塾の持ち味を生かして、世界に貢献し国際評価を高めていくことを目指します。

具体的には「超成熟社会の持続的発展」の統合課題の下、「長寿(Longevity)」、「創造(Creativity)」、「安全(Security)」の3つのクラスターを構築し、クラスターに全学のリソースを結集させ、世界で引用される英語論文や、国際共著論文などを飛躍的に増大させていきます。また、必要な様々な改革を塾長のリーダーシップによって進め「世界のトップ研究大学」に向かうことを目指します。



経済学部新プログラム 「PEARL」創設を発表

経済学部は、4年間一貫して英語で経済学を学ぶ新しいプログラム「Programme in Economics for Alliances, Research and Leadership (PEARL)」の創設を決定しました。2016年9月から開始する予定で、しっかりとした経済学の知識を基礎に世界を舞台に活躍する、先導者の輩出を目的としています。英語で行われる授業だけを履修して学士号が取得できるプログラムとしては、SFCのGIGAプログラムに続き、今回の経済学部のPEARLは2つ目のプログラムとなります。プログラム参加者は、日本人学生、外国人学生を問わず内外から幅広く募り、毎年約100名が入学します。また、能力と意思のある学生には5年間で学士号と修士号の双方を授与する、連携する海外のパートナー校から一流の教授陣を招聘しインターネット等を駆使した双方向遠隔授業も活用する、といった特徴があげられます。

SFCでの学部・大学院修士4年 一貫教育プログラムなどを発表

SFCは、2015年に開設25周年を迎えます。この記念事業の一つとして、総合政策学部と環境情報学部および大学院政策・メディア研究科は、現行の制度と並行して、学部・大学院修士の教育を一体として考える「学部・大学院修士4年一貫教育プログラム」を2015年度より開始することになりました。このプログラムによって、学部を4年間で卒業する場合とほぼ同じ費用・期間で学士および修士の2つの学位を取得できる道が開かれることになりました。

またSFCでは、2011年9月に環境情報学部創設した英語で提供される授業のみで学部卒業が可能なGIGAプログラムを、2015年度秋学期からは、総合政策学部においても開始することになりました。これにより、優秀な留学生をさらに増やし、キャンパスのグローバル化を推進します。